

北信教育事務所だより



～子どもに発し、子どもに還る 学校づくり・授業づくり～

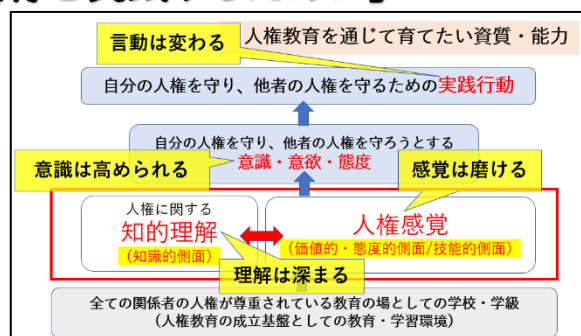
令和6年7月23日 第3号

初任者・キャリアアップ研修Ⅰ(5年経験者) 教師力向上研修Ⅱ・Ⅳ

～クロスエイジセッションにより、自己課題を明確にし、課題解決につなげる～

「子どもたちと共に考える人権教育を実践するために」

研修会の前半では、人権教育について考えました。全教育活動の基盤となる人権教育を通じて育てたい資質・能力について学ぶと共に、現在ある様々な人権課題のうち、「同和問題」を中心に扱いました。「副読本『あけぼの』を活用し、人権教育の充実につなげる授業づくりをしてみたい」「まずは自分自身が正しい人権感覚をもちたい」など、参加した先生方から、これからの教育活動に生かそうとする前向きな感想が多く寄せられました。



～研修会のスライドより～

「それぞれの願いの実現へ」

後半は、初任者とキャリアアップⅠの先生方でグループ協議を行いました。協議Ⅰでは経験年数の違いを生かしながら、お互いの授業づくりや学級経営について話し合いました。キャリアアップⅠの先生方が日頃の実践を熱く語る姿に、初任の先生方は真剣に聞き入っていました。持ち寄った教材や学習記録を基に明日の授業につながるヒントをお互いに学び合うことができました。

協議Ⅱでは、日頃考えていることや相談したいこと等を語り合いました。各グループ、初任者の先生から積極的に話題が出されました。キャリアアップⅠの先生は、初任の先生にアドバイスすることにより、自身のこれまでの教員生活を振り返り、今の立ち位置を見つめ直す機会となりました。また初任の先生は、話を聞いてもらい語り合うことにより、新たな刺激を受け、自己課題を明確にし、次の一歩を踏み出す力をもらうことができました。



〈初任者の感想〉

先輩方に悩みを直接聞いてもらい、かなり気持ち楽になりました。子どもたちに分かりやすい授業づくりを目指していきたいです。

〈キャリアアップⅠ対象者の感想〉

悩んでいた自分の初任の頃を思い出しました。これからも、児童生徒が主体的に学べる授業を目指し、日々研修する姿勢を大切にしていきたいです。

1学期の学校訪問支援

各学校での特色ある実践

～小学校編～



1学期、学校訪問支援を行う中で、自校の研究テーマに基づき、工夫を凝らした研修を実施し、特色ある実践につなげている学校の様子を紹介します。

「スタートカリキュラムの取組み～1年生の授業から～」 千曲市立 五加小学校



五加小学校では、1年生がスムーズに小学校生活になじめるように、スタートカリキュラムを行っています。国語の「ひらがな」の学習では、言葉を発しながらの楽しく飽きさせない活動と、静かに集中して取り組む書く活動をバランスよく行っています。子どもたちが集中して書く場面では、先生が励ましの言葉をメモ帳に書いて、見せて回るといった工夫をしています。

「子どもの願いと学びをつなぐ、ふるさと学習の展開」 飯山市立 常盤小学校



常盤小学校では、先生方が、地域の自然や産業を題材にして、子供の願いと各教科の学びをつなぐふるさと学習に取り組んでいます。各学年の年間指導計画をもとに、カリキュラムマネジメントの視点で計画を日々更新しています。子どもを主語にした教科横断的な学びが展開されています。

「語り合う場を設け、園小接続を考える」 須坂市立 日野小学校

10月18日(金) 幼年教育
教育課程研究協議会 会場校



日野小学校では、日野保育園と連携し、園小の円滑な接続に取り組んでいます。日頃から園小のコミュニケーションを大切に、それぞれの子どもの学びの姿を具体的に語り合っています。今後は、保育園の環境づくりを生かし、幼児期の育ちをどのようにつないで小学校の授業づくりを進めていくか考えていくようです。

5/23 第1回外国人児童生徒等指導研修会

様々な理由によって日本に来て、小・中学校等で学ぶ子どもたちが増えています。北信地区にも、そうした子どもたちの日本語の力を育むために、工夫した指導を実践している先生方がいらっしゃいます。

5月の終わり、「北信地区 第1回外国人児童生徒等指導研修会」を開催しました。本研修には、「教科指導と日本語指導をどう組み合わせたらよいのか?」「初期の日本語指導で大切なことは?」等、それぞれの参会者の皆さんから疑問や考えていることを、持ち寄っていただきました。そして、資料を基に日本語教育についての理解を深め、指導の具体について話し合うことを通して、明日からの実践につながるヒント等を得ている参会者の皆さんの姿がありました。以下は、参加者の感想です。



「日本語を教える」というよりも、「概念をもつことができるように指導すること」「教科の学びや自分の興味・関心を大切にすること」「個人としてのアイデンティティをもち、自分の生き方を肯定的にとらえることができるようになること」など、日常的な関わりの中から、日本語を指導する目的を意識して、子どもたちと関わっていきたいです。



テーマごとのトークが面白く、1つのテーマから、日々の実践や別のテーマへと話題が広がって、より実践的な内容の情報交換ができました。普段抱えている不安や困りごとを、言葉にして語ることで、安心をしたり、不安を減らしたりすることもできてよかったです。

研修の最後に「ネットワークづくり」を行いました。Google Classroomで「北信地区の日本語教育担当者クラスルーム」をご紹介します。普段の取組や悩み等について、北信地区の先生方が、このクラスルーム内でつながり合い、共有できる場になっていくことを期待しています。



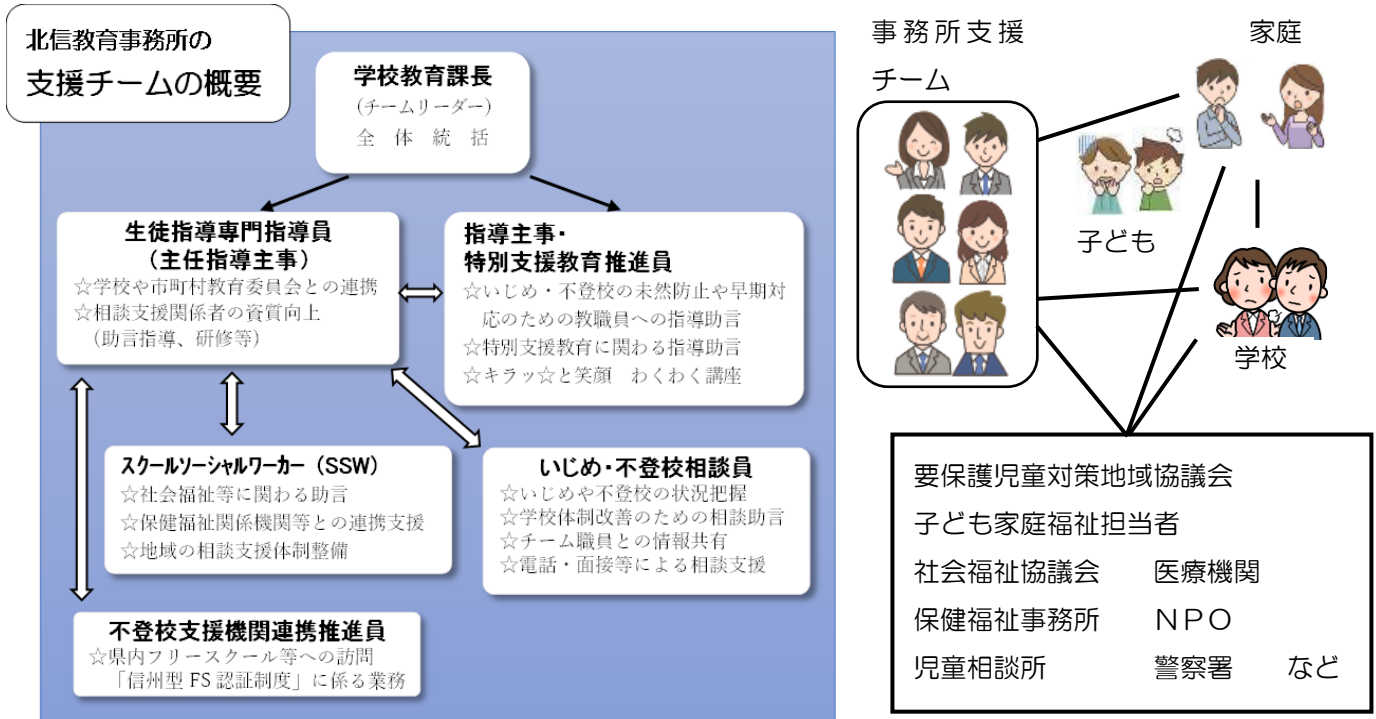
専用 Classroom のトップページ

日本語指導を担当される先生方の、子どもの実態等に応じた指導、子どもと関わり方の工夫等、素晴らしい実践と熱意を、ぜひ校内や各地区で共有していただき、日本語教育の更なる充実につながればと願っています。

いじめ・不登校地域支援チームの活動について

すべての児童・生徒の笑顔のために

協働による支援で どの子にも「居場所、生きがい、存在感」のある学校づくりをお手伝いします。



北信教育事務所では、いじめ・不登校地域支援チームを設置し、学校・家庭・関係機関による地域支援体制をサポートしております。

- ◎福祉に関する専門的な助言を必要とするケースに対し、SSWが、本人を取り巻く環境も含めて問題解決への糸口を探り、福祉・医療機関等と連携して対応します。
- ◎学校が生徒の家庭状況に介入しにくいケースについても、学校から状況を聴かせていただき、家庭に関わるための適切な方法などを一緒に考えていきます。

スクールソーシャルワーカー (SSW) による支援事例として

(1) 家庭環境・児童虐待のケース

要対協や児童相談所等と連携し、家庭の支援をすることで、子どもの安心と安定した生活を確保できた。

(2) 心身の健康・保健に関するケース

医療機関につなげ、子どもが適切な診断を受けて入院し、治療に専念できる環境を整えた。

(3) 家庭の貧困(生活困窮)に関するケース

生活就労支援センター「まいさぼ」とつながり、進路への不安を和らげ、その後の対応につなげた。

まずは、「いじめ・不登校地域支援チーム」に、電話 (026-234-9551) でご相談ください。

令和6年度 第1回

スポーツ活動
指導者講習会

わくわくスポーツセミナー

テーマ

「障がいの有無に関わらず、
誰もが一緒に楽しめる運動・スポーツ指導
～アダプテッド・スポーツの理解と実践～」



みんなと一緒にやりたいけど、どうしたらいいかわからない…。



みんなと一緒に運動は
できないから、応援を
がんばるよ。

ルールが分からないし、
ボールも怖いからやりた
くない…。

☆運動が苦手、ルールを覚えられない、障がいなどにより活動に制限があるなど、様々な要因により運動を楽しむことができない人（子ども）っていませんか？ だれもが一緒に運動を楽しむための方法について、一緒に勉強してみましょう！

日時

令和6年9月23日(月・振休)午前

参加費・定員

参加費無料・先着50名

場所

長野県障がい者福祉センター
サンアップル(ホール・体育館)

講師

東海大学体育学部 体育学科 教授
内田 匡輔 先生

参加申し込み
QRコード



問合せ先

長野県観光スポーツ部スポーツ振興課
北信教育事務所駐在 越田

☎ 026-234-9552

✉ koshida-shinji@pref.nagano.lg.jp